

⑩南三陸町志津川東地区における 福祉と連携した災害公営住宅の整備

受賞機関 独立行政法人都市再生機構
宮城・福島震災復興支援本部

キーワード 高齢者支援、住民参加、住宅配置の工夫

全建賞審査委員会の評価ポイント

宮城県南三陸町で、福祉と連携した災害公営住宅を整備した事業。

入居者の見守りをしやすい配置や高齢者生活支援施設の整備等のハード面に工夫がなされている点や、地域交流や高齢者福祉の推進に資する地域住民参加型のワークショップの開催やLSAの常駐など、ソフト面での取組みを行っている点が評価された。

1. はじめに

南三陸町は、いわゆる三陸海岸の南端に位置する漁業と林業が盛んな人口1.4万人の町である。

東日本大震災の20mを超える津波により死者行方不明者は800余名、家屋倒壊が60%と甚大な被害を受けた。

2. 事業の概要

当該地区は、志津川の既成市街地を拡張した部分で、周囲には住宅や体育館・ホールを併設するベイサイドアリーナが存在するエリアで、震災後には新たに病院や町新庁舎が立地している。

町では既に高齢化率が30%を超え、近い将来50%を超えることが予測されるため、計画の当初から住宅部局と福祉部局が連携、国や県・UR・学識者等を交え地域支えあいのモデルを検討し、

- ①高齢者の見守り活動にむけた体制づくりの構築
- ②高齢者に配慮した住宅計画
- ③福祉サービス施設と一体的利用を想定した計画

を策定した。特にハード面については、以下のとおりである。

1) 住民交流・高齢者福祉に配慮した住戸計画

リビングアクセス住戸を採用し、コミュニティ形成や入居者同士の見守りがしやすい配置とした。玄関引戸化など介護等のしやすさも意識。

2) 地域交流を配慮した配置計画

団地外の人も利用できる大広場を中心におき、集会所や福祉関連施設を周辺に配置。また住棟間にはコモン・菜園など住民交流の場を設置。

3) 高齢者生活支援施設（福祉モール）の整備

高齢者が地域の中で住み続けられるよう、福祉サービス機能を有する生活支援施設を併設。

4) 周辺戸建住宅に配慮した景観

また、ソフト面については、以下のとおりとした。



南入りのリビングアクセス住戸があるコモン

- 5) 併設する高齢者生活支援施設の計画策定等に対する支援。
- 6) 町や地元の社協、NPO、企業等とURも連携、様々な住民交流イベントの開催を支援。

3. 事業の成果

- ①整備方針のもと、福祉配慮住宅整備、見守り支援としての生活支援員（LSA）の常駐、高齢者生活支援施設の整備の3つが実現。
- ②地域住民主催による各種の活動が試行的に実施され、各回50～100名以上の方が参加。施設完成後も社会福祉協議会がサポートしながら住民主導によるカフェと食堂が継続的に運営される予定。
- ③周辺住民を巻き込んだ交流イベントの開催により、自治組織の活動がより活発化。



ミニ運動会の様子

4. おわりに

町の先見性の高い思想のもと、関係者の努力により実現できた住宅や施設において、その思いを理解して住んでおられる方々を目にできるのは、関わった技術者として大きな喜びである。